平成24年９月14日

各　　位

会 社 名　　JALCO ホールディングス株式会社
代表者名　　代表取締役社長　田辺　順一
（ＪＡＳＤＡＱ・コード 6625）
問合せ先
役　職・氏　名　取締役管理本部長　大浦　隆文
電　話　　050－5536－9824

特別損失の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 25 年３月期第２四半期累計期間（平成 24 年４月１日～平成 24 年９月 30 日）決算において特別損失を計上するとともに、平成 24 年５月 18 日付当社「平成 24 年３月期　決算短信」にて公表いたしました平成 25 年３月期の業績予想を修正することとしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

１．特別損失の発生について

（１）事業譲渡損（連結）

本日発表「（開示事項の経過）子会社の事業譲渡及び子会社（孫会社）の異動（出資持分譲渡）に関するお知らせ」のとおり、当社連結子会社の株式会社ジャルコ（以下、「ジャルコ」といいます。）は、本日、電子機器用部品事業の一部、及びジャルコの子会社（当社の孫会社）である杭州佳路克電子有限公司並びに JALCO ELECTRONICS HONGKONG LIMITED のジャルコ保有出資持分の全てを、東北タツミ株式会社（以下、「東北タツミ」といいます。）に譲渡する契約を締結いたしました。これに伴い、当該事業譲渡の効力発生日（平成 24 年９月 28 日予定）をもちまして、連結決算において事業譲渡損 50 百万円を特別損失として計上する見込みとなりました。

（２）固定資産減損損失（連結）

上記ジャルコから東北タツミへの事業譲渡において譲渡対象外となりました固定資産（機械・装置）につきまして、今後の使用見込みをふまえた現時点での資産性を検討した結果、連結決算において固定資産減損損失 15 百万円を計上する見込みとなりました。

（３）関係会社清算損（連結　会計上純資産増減への影響なし）

本日発表「関係会社の清算結了に関するお知らせ」のとおり、ジャルコの子会社（当社の孫会社）である佳路克集団香港有限公司及び JALCO ELECTRONICS SINGAPORE PTE. LTD.の清算が結了いたしました。これに伴い、為替換算調整勘定の取り崩しによる特別損失 43 百万円を計上する見込みとなりました。

ただし、当該為替換算調整勘定は、マイナス 43 百万円で計上されており、純資産の金額を減少させていましたが、清算結了に伴いそのマイナス分が除外され、純資産の金額を 43 百万円増加させることとなります。一方、上記のとおり、為替換算調整勘定の取り崩しは会計上特別損失として計上され、当期純損失として利益剰余金を減少させ、純資産の金額を 43 百万円減少させますので、「純資産の部」の中で、両者は相殺されることとなります。従いまして、当該特別損失は、純資産の増減への影響はありません。

２．連結業績予想値の修正

（１）第２四半期累計期間の業績予想修正（平成 24 年４月１日～平成 24 年９月 30 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	620	△74	△115	△135	△13 円 27 銭
今回修正予想（B）	923	△110	△136	△281	△27 円 61 銭
増減額（B－A）	303	△36	△21	△146	―
増減率（%）	48.9%	―	―	―	―
（ご参考）前期実績（平成 24 年３月期 第２四半期累計期間）	1,142	△262	△310	△308	△43 円 79 銭

＜修正理由＞

連結売上高は、当初予想を３億３百万円上回り９億 23 百万円となる見込みです。これは主に、電子機器用部品事業において、平成 24 年６月に事業の一部譲渡を決定したことに伴い、営業体制を変更したことなどにより、電子機器用部品事業の売上高が当初予想を 47 百万円下回り４億 75 百万円となる見込みとなったことに対して、遊技機レンタル・割賦販売事業における中古遊技機販売取引について、８月末取引分より取引形態を変更したことにより、取扱高を基準として売上高を計上することとなり、遊技機レンタル・割賦販売事業の売上高が当初予想を３億 49 百万円上回り４億 48 百万円となる見込みとなったことによるものであります（当該売上高計上方法の変更による前記売上高への影響は約３億 15 百万円となる見込みですが、収益への影響はありません）。

連結営業損失は、当初予想を 36 百万円下回り１億 10 百万円、連結経常損失は当初予想を 21 百万円下回り１億 36 百万円となる見込みです。これは主に、電子機器用部品事業における売上高の下ぶれに加えて、遊技機レンタル・割賦販売事業において、第２四半期累計期間内での資金投下時期が遅れたことで、収益実現についても遅れが生じたことなどによるものであります。

連結当期純損失は、当初予想を１億 46 百万円下回り２億 81 百万円となる見込みです。これは主に、経常損益の下ぶれに加えて、平成 24 年５月にジャルコの子会社である PT. JALCO ELECTRONICS INDONESIA が保有する土地（地上建設権）・建物の譲渡を決定したことに伴い、現地正規従業員の退職手続を進めた結果、当該退職金のうち計上済み退職給付引当金を超過した 38 百万円を特別損失として計上したこと、及び「１．特別損失の発生について」に記載しましたとおり、電子機器用部品事業の一部譲渡に伴い事業譲渡損 50 百万円、固定資産減損損失 15 百万円、関係会社２社の清算結了に伴い関係会社清算損 43 百万円を各々特別損失として計上する見込みとなったことなどによるものであります。

（２）通期の業績予想修正（平成 24 年４月１日～平成 25 年３月 31 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	1,760	160	70	30	２円 95 銭
今回修正予想（B）	4,300	40	△45	△220	△21 円 62 銭
増減額（B－A）	2,540	△120	△115	△250	―
増減率（%）	144.3%	△75%	―	―	―
（ご参考）前期実績（平成 24 年３月期）	1,890	△534	△571	△686	△91 円 22 銭

＜修正理由＞

通期の売上高につきましては、電子機器用部品事業において、事業の一部譲渡に伴い計画の見直しを行いました。AV 家電及びその他デジタル家電におけるハイスペックな電子部品やパチンコ、パチスロ等のアミューズメント機器に関する電子部品の開発・販売については、営業（試作）段階から受注、売上実現に至るまで一定期間を要することから、当事業年度においては慎重に見積もることとし、東北タツミ株式会社との協業に伴い同社から収受することになるブランド使用料、及びパチンコ、パチスロ分野におけるアミューズメント機器以外の機械・機器の開発・販売売上を中心に見積もりを行いました。以上により、電子機器用部品事業の売上高は、当初予想を７億 80 百万円下回り７億 30 百万円となる見込みです。

次に、遊技機レンタル・割賦販売事業においては、当初予想では織り込んでいなかった中古遊技機レンタル売上約２億 60 百万円を加える一方で、中古遊技機販売売上については、第２四半期累計期間末の取引残高、及び第３・第４四半期の資金投下予定額を基に見積もりを行いました。この結果、遊技機レンタル・割賦販売事業の売上高は、当初予想を 33 億 20 百万円上回り 35 億 70 百万円となる見込みです（「（１）第２四半期累計期間の業績予想修正」に記載の売上高計上方法の変更による前記売上高への影

響は約 30 億 68 百万円となる見込みですが、収益への影響はありません）。
これらにより、連結売上高は、当初予想を 25 億 40 百万円上回り 43 億円となる見込みです。
連結営業利益は、当初予想を１億 20 百万円下回り 40 百万円、連結経常損益は、当初予想を１億 15 百万円下回り 45 百万円の損失となる見込みです。これは主に、電子機器用部品事業における計画修正に伴う売上高の下ぶれに伴い、当該事業の営業損益が当初予想における１百万円の利益から１億 12 百万円の損失となることを見込んだことなどによるものであります。
連結当期純損益は、当初予想を２億 50 百万円下回り２億 20 百万円の損失となる見込みです。これは主に、経常損益の下ぶれに加えて、第２四半期累計期間において計上見込みの特別損失を織り込んだことなどによるものであります。

３．個別業績予想数値の修正

（１）第２四半期累計期間の業績予想修正（平成 24 年４月１日～平成 24 年９月 30 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	84	6	0	0	０円０銭
今回修正予想（B）	84	4	4	7	０円 69 銭
増減額（B－A）	0	△２	4	7	―
増減率（%）	０%	△33.3%	―	―	―

※当社は、平成 23 年 10 月３日に単独株式移転により株式会社ジャルコの完全親会社として設立されたため、前期実績の記載はありません。

＜修正理由＞

個別売上高は、当初予想のとおり 84 百万円となる見込みです。
個別営業利益は、当初予想を２百万円下回り４百万円となる見込みです。これは主に、ジャルコより取得した不動産の減価償却費が発生したことなどによるものであります。
個別経常利益は、当初予想を４百万円上回り４百万円となる見込みです。これは主に、資金調達コストが当初予想を下回ったことなどによるものであります。
個別当期純利益は、当初予想を７百万円上回り７百万円となる見込みです。これは主に、経常損益の上ぶれに加えて、前事業年度において、平成 24 年４月末の本社移転に伴う本社移転費用として計上した特別損失８百万円のうち３百万円を本社移転に関する総費用が確定した時点で、特別利益として戻し入れたことなどによるものであります。

（２）通期の業績予想修正（平成 24 年４月１日～平成 25 年３月 31 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	168	17	5	5	０円 50 銭
今回修正予想（B）	168	5	3	6	０円 59 銭
増減額（B－A）	0	△12	△２	1	―
増減率（%）	０%	△70.6%	△40%	20%	―

※当社は、平成 23 年 10 月３日に単独株式移転により株式会社ジャルコの完全親会社として設立されたため、前期実績の記載はありません。

＜修正理由＞

個別売上高は、当初予想のとおり１億 68 百万円となる見込みです。
個別営業利益は、当初予想を 12 百万円下回り５百万円となる見込みです。これは主に、監査報酬の引き下げ、会計業務の内製化などのコスト削減を見込んだのに対して、ジャルコより取得した不動産の減価償却費の発生、及び経営体制の強化、優秀な人材の確保を目的とした人件費増加などを見込んだことなどによるものであります。
個別経常利益は、当初予想を２百万円下回り３百万円となる見込みです。これは主に、営業損益の下ぶれに対して、第２四半期累計期間における実績をふまえて資金調達コストの見直しを行ったことなどによるものであります。
個別当期純利益は、当初予想を１百万円上回り６百万円となる見込みです。これは主に、経常損益の下ぶれに対して、第１四半期累計期間において計上済みの特別利益を織り込んだことなどによるものであります。

ご注意：本資料に記載しております業績に関する予想数値は、いずれも本資料の発表時現在において入手可能な情報による判断及び仮定に基づくものであり、実際の業績は当該予想と異なる場合がありますので予めご理解ください。

以　上